

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610123667		
法人名	医療法人 道志社		
事業所名	グループホーム大神子		
所在地	徳島市大原町大神子16番2		
自己評価作成日	平成24年9月12日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、自然に恵まれた日の峰大神子広域公園の近隣に位置している。廊下も広くなり車椅子もゆったりと行き来でき、食堂は明るく、食堂からの風景は馴染みがある。利用者は、外のベンチで季節を感じ散歩や外出、買い物等しながら楽しく過ごしている。室内でのレクリエーション、医療機関で行われる行事にも参加し、コーヒーサービス等で歌や塗り絵、ミニ生け花を楽しんでもらっている。事業所でも、日曜日には喫茶コーナーを設けて好きな飲み物を選べるようにし、利用者の憩いの場となっている。母体法人の医療機関と連携を図り、緊急時にはすぐに対応できる体制を構築しているため、利用者や家族等の安心に繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は山間部の中腹に位置しており、近隣には海岸も広がる自然豊かな環境となっている。利用者は、家庭的な雰囲気の中穏やかに暮らしている。日ごろから、利用者と職員は、散歩やピクニックへ出かけ、空き缶拾いやゴミ集めを行っている。また、地域の清掃活動へ積極的に参加し、地域住民と継続的に交流を図っている。職員は、利用者に寄り添って接し、尊厳や権利の尊重に努めている。代表者は、職員の自主性を尊重し、職員一人ひとりが自己研鑽できる環境と機会を設け、質の高いチームケアの実践に取り組んでいる。また、同一法人の運営する医療機関と密に連携を図っており、利用者や家族の安心感に繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			① 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、理念を唱和し、利用者の思いを重視し、地域との関係もより良くなるよう、理念を共有し実践に繋げている。	事業所では、地域密着型サービスの目的を全職員で確認しあったり、事業所内に理念掲示したりして共有化を図っている。朝礼時、理念を唱和し、日ごろのサービスに理念を反映するよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出時等に積極的に話し掛け、行事や運営推進会議等への参加をお願いしている。	地域のお祭りに参加している。また、少なくとも月1回は神社や海岸の清掃活動等を行って地域に貢献している。利用者は、散歩時に地域住民と挨拶を交わしており、顔なじみの関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症について話し合い意見をいただいたり、毎月利用者の俳句を新聞広告に掲載し、地域の方に知っていたかのような働きかけ理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回、運営推進会議を開催し参加者から素直な意見をいただき、管理者、職員間で共有し、サービスの質の向上に反映している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議時に出された意見や要望等をサービスの質の向上に繋げている。家族や地域住民の代表、地域包括支援センター職員の参加を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退居状況の報告や介護認定等の更新手続き、運営推進会議、ホーム便り等の報告等、事業所の取り組みを積極的に伝え、協力関係を築くよう努めている。	なるべく市担当窓口を直接訪問するよう心がけている。定期的な実績報告のほかにも、2か月ごとに事業所便りを持参し、事業所の運営やサービス等への助言を得ることができるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	散歩や外に出ることを重視し、利用者一人ひとりの行動や状態を把握し、安全で安心した生活ができるよう取り組んでいる。	身体拘束の廃止に関するマニュアルを作成している。事業所内で研修会を開催し、全職員で身体拘束をしないケアのあり方について共有化を図っている。玄関は電子ロックとなっているが、利用者の希望に応じて職員が付きそうようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の研修等に参加し、運営推進会議でも話し合い意見をいただき、学習の機会を持ち虐待防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			① 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち研修等で学んだことを全職員で話し合い勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時は、利用者、家族の気持ちを考え、十分話し合う時間を設けて不安を軽減できるよう相談にのっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時などに気軽に話しが出来る雰囲気をつくり、意見や要望を聞いたり玄関に意見箱を設置し、年1回アンケートを実施して意見等を聞いている。	玄関に意見箱を設置している。年1回、アンケートを実施したり、家族の来訪時に話しかけたりして意向の把握に努めている。また、毎月の生活状況便りや2か月ごとに事業所便りを送付している。出された意見や要望は、職員会議等の機会に検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を開き、定期的に話し合う機会を設け、個別相談にも応じるなどして、職員の素直な意見や提案を運営に活かしている。	朝礼時や月1回の全体会議、主任会議、栄養会議等を開催している。職員間で、改善点について話しあう機会を多く設け、働く意欲の向上やサービスの質の確保に取り組んでいる。個別面談の機会も確保しており、職員一人ひとりから意見等を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や勤務実績を把握して、研修会への参加や資格取得を促進して、向上心をもって働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には職員の段階に応じ受講できるよう努め、受講後の資料で勉強会を行い職員間で内容を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会等の研修や勉強会に参加している。他施設を訪問し意見交換を行い交流を深め質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			① 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、生活状況や本人が望んでいることの把握に努め信頼関係をつくっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者や家族と面談し、不安や要望、困っていることに耳を傾け信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等が必要としていることを見極め、本人合った他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、昔話や教えていただくこともたくさんあり、共有し、楽しみながら共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時や電話等で利用者の状況、状態を伝え、ホーム便り、ハガキ等を出している。アンケートを実施し、要望意見を聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手作りのハガキや年賀状、暑中見舞いを出せるよう支援している。	利用者全員で季節のハガキを作成している。携帯電話で友人と会話を楽しんだり、行きつけの喫茶店や理・美容院へ出かけたりして、馴染みの関係が途切れることのないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リハビリ体操やテレビ番組での体操を利用者に合わせて行ったり、ソファで仲良く話している利用者同志の話が途切れないよう、時に職員が昔話などをさりげなく話題に出し、孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			① 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院された方の面会や家族に連絡して状態やかかえている不安を少しでも取り除けるようお話を傾聴し、相談にのり少しでも役に立てるよう努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃何気ない会話の中から本人の思いや昔の話などから把握に努めている。家族の協力を得て趣味や好物等を聞き、本人の希望に添った暮らしが出来るように検討している。	利用者一人ひとりの趣味や好みを尊重している。意思疎通の困難な方には、日ごろの行動や表情から意向を察知したり、家族から聞きとりを行ったりして本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族との会話の中で生活歴や馴染みの暮らし方などを聞き、その方の好む話題を発見し、日頃の介護に活かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースに合わせた過ごし方表情、状態を見ながら、一人ひとりの有する能力の把握に努め、生活の質の向上が図れるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞きながら意見を取り入れ職員間で話し合い、意見やアイデアを出し、3カ月毎にカンファレンスを行い、又、利用者の状況の変化等に応じて検討し見直している。	3か月に1回、介護計画書を見直しているが、利用者の心身状態の変化に応じ随時の見直しも行っている。介護計画の作成時、家族や職員の意見を介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を介護記録に記入し朝礼時や随時申し送りを徹底し職員間で共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、外出や通院などの要望に添って取り組んでいる。職員間で話し合い、一人ひとりの満足度を高めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			① 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所等と連携を図り、運営推進会議等を通じて参加者との協力関係づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設する医療機関を定期的に受診している。本人、家族の希望する医療を受けられるよう、家族や職員が付き添っている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族の協力を得たうえで受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、日常的な健康管理や医療面での相談、対応を行っている。職員は表情や気づきを見逃さないように、早期発見に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が頻繁にお見舞いに行き、状態を確認している。医師や看護師と情報交換を行い、家族に詳細を伝えて不安を軽減できるよう心がけている。馴染みの利用者と一緒にお見舞いに行くこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を尊重し、医療機関と職員が連携を図っている。重度化した場合の説明を医師から家族に説明している。又、契約前には看取りが必要となった場合の内容を説明して同意を得ている。	事業所としての終末期の方針を作成している。入居時の段階で、利用者や家族に十分な説明を行っている。随時、医療関係者と連絡を取りあうなどして支援体制を構築している。また、職員は、重度化や終末期に関する研修会やマニュアル等で学習している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より救急救命講習にきて頂き応急手当や初期対応の訓練をうけ実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を利用者と共に行い運営会議で話題として取り上げ地域の方に強力を願っている。併設する医療機関で消防署の指導のうえ防災訓練をしている。	年2回、消防署の協力を得て、避難訓練や起震車での訓練を実施している。毎月、火災訓練を実施している。また、法人で防災委員会を設置し、災害に備えて備蓄品を整備するなどの取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			① 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に不安や困っていることなどを察し、他の利用者にはわからないよう、さりげない言葉掛けをし、スキンシップを図りながら対応している。	日ごろの利用者との関わりのなかで、一人ひとりへの言葉かけや人格を尊重したケアを徹底している。また、個人情報保護に関する研修会等を開催し徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族の来訪時にはプライバシーを尊重し、本人の居室に案内し、ゆっくりと過ごせるようにしたり、散歩や買い物等希望にそって対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用所一人ひとりのペースに合わせ、食事や入浴を支援している。本人の希望に添って対応し、体調に合わせた柔軟な支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の自己決定を優先できるように支援し、理美容に関しても、家族の協力を得て、出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛りつけを手伝っていただいたりテーブル吹き、食器の片付け等お手伝いしていただいている。	同一法人の運営する他サービス事業所の厨房で調理したものを事業所へ運び込んで盛りつけを行っている。管理栄養士が栄養バランスに留意した献立を立てている。また、利用者一人ひとりの嚥下状態に応じた食事形態で提供している。月3回程度は、利用者の希望を聞いて事業所内で調理している。利用者は、一人ひとりの力量に応じて盛りつけや片づけなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録することで一人ひとりの状態を把握し、状況に応じた対応を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	院内の月一回の口腔ケア研修会に参加し歯科衛生士の指導を受け状態に応じたケアをしている。毎食後の歯磨き誘導や入れ歯の方の歯を預り除菌している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			① 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しさりげない言葉掛けや誘導を行い、出来る限りトイレでの排泄を心掛けている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレへ誘導している。トイレでの排泄を習慣とすることで、排泄の自立に向け取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をこまめに心掛け、散歩や身体を動かしていただくようにしている。医療と連携して緩下剤等でスムーズな排泄が出来るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者にその日の希望を確認して入浴していただいている。拒む方は声掛けのタイミングを図っている。入浴中利用者から様々な話を聞くことが出来、会話を楽しみながら笑顔でリラックスされている。	少なくとも2日に1回は入浴できるよう支援している。利用者一人ひとりの状態にあわせてシャワーやチェア入浴などを活用し、利用者が安全に安心して入浴を楽しむことができるように支援している。入浴を拒む利用者には、時間をおいて声かけを行うなどの工夫をし、一人ひとりに応じた支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多くし、生活リズムを整えるようにしている。体調にも考慮して休息をとれるようにし、眠れない方はお話を傾聴し不安を取り除くように接している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書で用法、容量、目的などを理解し確認している。症状の変化のある時は、その都度、医師、看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、たたみ、毎日のゴミ捨て等一人ひとりの状態に応じお手伝いしていただいている。又、絵を見て間違い探し、計算等の脳トレをして得意分野で力を発揮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から散歩、買い物に出かけている。季節毎の行事、外食などの支援をしている。交通機関を利用し本人の希望する場所へ出かけている。	日ごろから、利用者一人ひとりの希望に応じて、散歩や買い物等の外出を支援している。地域で開催される季節行事への外出も支援している。外出時の記録をアルバムやお便りに記載し、本人や家族に見てもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価 ①		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけた際には喜びを感じていただけるよう家族から預ったお金を渡し本人に支払をしていただいている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い、年賀状を自筆で書いて頂いたり、2ヶ月に一度のホーム便りに本人のメッセージを書いていただいている。電話の希望がある時は取り継ぎお話されている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と共に折り紙等で作った作品やカレンダーを壁に掲示したり、居室に貼っている。又、ボランティアの方と一緒に作ったミニ生け花も食堂や居室、トイレなどに飾っている。	玄関やホールに季節の花や飾りを掲示している。共用空間は日当たりが良い。廊下やホールにソファを設置し、利用者はゆったりとした雰囲気なかで過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼リビングのイスやソファに座りテレビを観たり談笑されたりと楽しんでいる。ソファが廊下にもあり思い思いの場所で過ごされている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛着のある家具、置物等ご家族と相談し居心地よく過ごせるように工夫している。	利用者は、使い慣れた筆筒や仏壇等を居室に持ち込んでいる。また、壁面には、手芸品や絵画等の趣味の作品、家族の写真等を飾っている。利用者一人ひとりの好みに応じた居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事やわかることを把握し、目に付きやすい様大きく書いた貼り紙するなどして、安全で自立した生活が送れるよう工夫している。			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			② 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時、理念を唱和し、利用者の思いを重視し、地域との関係もより良くなるよう、理念を共有し実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩や外出時等に積極的に話し掛け、行事や運営推進会議等への参加をお願いしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症について話し合い意見をいただいたり、毎月利用者の俳句を新聞広告に掲載し、地域の方に知っていただけるよう働きかけ理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回、運営推進会議を開催し参加者から素直な意見をいただき、管理者、職員間で共有し、サービスの質の向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退居状況の報告や介護認定等の更新手続き、運営推進会議、ホーム便り等の報告等、事業所の取り組みを積極的に伝え、協力関係を築くよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	散歩や外に出ることを重視し、利用者一人ひとりの行動や状態を把握し安全で安心した生活ができるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃さざれることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内の研修等に参加し、運営推進会議でも話し合い意見をいただき、学習の機会を持ち虐待防止を徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			② 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち研修等で学んだことを全職員で話し合い勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時は、利用者、家族の気持ちを考え、十分話し合う時間を設けて不安を軽減できるよう相談にのっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時などに気軽に話しが出来る雰囲気をつくり、意見や要望を聞いたり玄関に意見箱を設置し、年1回アンケートを実施して意見等を聞いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を開き、定期的に話し合う機会を設け、個別相談にも応じるなどして、職員の素直な意見や提案を運営に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況や勤務実績を把握して、研修会への参加や資格取得を促進して、向上心をもって働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には職員の段階に応じ受講できるよう努め、受講後の資料で勉強会を行い職員間で内容を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会等の研修や勉強会に参加している。他施設を訪問し意見交換を行い交流を深め質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			② 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面談を行って状態を把握するように努めている。本人が困っていること、不安なことなどをなげない会話の中に盛り込み聞いている。コミュニケーションをとり、信頼関係がもてるようにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯についてゆっくりと話を聞いている。家族が求めているものを理解し、安心が得られるよう時間をかけて話を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実情や要望をもとにその時、何が必要か見極め、できる限りの対応に努めるようにもしている。必要に応じレンタル利用のお話をさせていたが、安心して納得ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心の中の不安、苦しみ、喜びなどを知ることに努め思いやりを持って接するように努めている。利用者の得意とすることを知りその力を発揮できるよう支援している。利用者から教わることも多く感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子、気づきを伝え家族からも協力を得られている。家族と共にきめ細かい対応ができるよう努めている。アンケートを実施して、意見、要望を聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手作りのハガキや年賀状、暑中見舞いを出せるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者全員の顔が見えるようにテーブルを配置している、お互い話ができるように職員がきっかけを作り孤立しないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			② 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に入院された方の面会や家族に連絡して状態やかかえている不安を少しでも取り除けるようお話を傾聴し、相談にのり少しでも役に立てるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が一人ひとりの思いや意向について関心をはらい把握しようと努めている。困難と決めつけず本人の視点に立って意見を出し合い話し合っていくように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者、家族との会話の中で生活歴や馴染みの暮らし方などを聞き、その方の好む話題を発見し、日頃の介護に活かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の暮らしの流れにそって把握するように努めている。利用者を見つめる目を養い、できることは何か、わかることは何かを発見していくように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を聞きながら意見を取り入れ職員間で話し合い、意見やアイデアを出し、3カ月毎にカンファレンスを行い、又、利用者の状況の変化等に応じて検討し見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人が言ったこと、職員が気づいたことケアの実践などを個別記録に記入している。職員間で情報を共有しそれをもとに生活状況を書き家族に郵送している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて、外出や通院などの要望に添って取り組んでいる。職員間で話し合い、一人ひとりの満足度を高めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			② 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所等と連携を図り、運営推進会議等を通じて参加者との協力関係づくりに努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設する医療機関を定期的に受診している。本人、家族の希望する医療を受けられるよう、家族や職員が付き添っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、日常的な健康管理や医療面での相談、対応を行っている。職員は表情や気づきを見逃さないように、早期発見に取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が頻繁にお見舞いに行き、状態を確認している。医師や看護師と情報交換を行い、家族に詳細を伝えて不安を軽減できるよう心がけている。馴染みの利用者と一緒に お見舞いに行くこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を尊重し、医療機関と職員が連携を図っている。重度化した場合の説明を医師から家族に説明している。又、契約前には看取りが必要となった場合の内容を説明して同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署より救急救命講習にきて頂き応急手当や初期対応の訓練をうけ実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を利用者と共に行い運営会議で話題として取り上げ地域の方に強力をお願いしている。併設する医療機関で消防署の指導のうえ防災訓練をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			② 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に不安や困っていることなどを察し、他の利用者にわからないよう、さりげない言葉掛けをし、スキンシップを図りながら対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	心の奥底にある思いを表すことができるようにゆっくりと話を聞いている。意思表示が難しい場合でも表情や全身から出る反応をキャッチできるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の状態に合わせて適切な関わりができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の自己決定を優先できるよう支援し、理美容に関しても、家族の協力を得て、出掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛りつけを手伝っていただいたりテーブル吹き、食器の片付け等お手伝いしていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録に食事量、水分量を記録している。一日全体を通して必要な食事や水分が摂れているのか職員間で話し合い知識、意識を持つように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	院内の月一回の口腔ケア研修会に参加し歯科衛生士の指導を受け状態に応じたケアをしている。毎食後の歯磨き誘導や入れ歯の方の歯を預り除菌している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			② 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しさりげない言葉掛けや誘導を行い、出来る限りトイレでの排泄を心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に記録し、排便の有無を確認している。水分補給をこまめに心掛け、散歩や身体を動かしていただくようにしている。医療と連携して緩下剤等でスムーズな排泄が出来るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者にその日の希望を確認して入浴していただいている。拒む方は声掛けのタイミングを図っている。入浴中利用者から様々な話を聞くことが出来、会話を楽しみながら笑顔でリラックスされている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力、日々の状態が違うためその時の応じた過ごし方、ケアの仕方を職員で話し合い支援している。なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅医療管理指導のもと行っている。一人ひとりの薬の目的や副作用、用法、用量などを理解し支援している。利用者の状態を常に把握し職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室、廊下の掃除をモップでしていただいている、カレンダーの日付管理車椅子の空気入れなど役割として行っている。誤嚥を予防するための発声運動は自ら先頭に立って行ってくれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から散歩、買い物に出かけている。季節毎の行事、外食などの支援をしている。交通機関を利用し本人の希望する場所へ出かけている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			② 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望で小銭を持っている方がいる。買い物時には自分で支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方がおられ、家族、知人から電話がかかってくる時があります。充電されているかを気にかけいつでも話ができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓にそって芝生が敷き詰められ春には部屋、食堂から満開になった桜が見えるようになっている。対面キッチンからごはんの炊けるにおいがして生活感があります。ブラインドより差し込む光は心地よくつるげる場所になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い食堂にソファやあんま機などを置いて自分の居場所を自由に決められるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使いなれた家具や小物等を持ってきていただけるようお話している。その人らしい生活が継続することができるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが分かりにくい方には大きくトイレと表示し部屋の分かりにくい人には本人が分かる目印をするなど工夫している。安全に、又、混乱しないよう生活が送れるよう工夫している。		